



小橋敏弘の ニッポン大好き!Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.23 アルプスの見えるスイスの老人ホームの実情

“実話”

読者の皆さんお元気ですか。今年の日本の夏はほぼ殺人的な猛暑と聞いておりますが、CAMELOTの読者の皆さんはどうやってこの猛暑を乗りきっていますか。

涼しいはずのスイスでも、今年の夏は記録的な猛暑です。スイスは、日差しは物凄く強いのですが、空気が日本に比べ比較的乾燥しているのです。30度を超す猛暑でも木陰に入るとまだしのげる暑さです。

そこで筆者の苦肉の策を説明させていただきます。3階のオフィスだと暑いので、仮設のオフィスを地下室の一角に設け、なんとかミッド環境もぎりぎりOKなので、この原稿も地下室で執筆しております。愛犬のFelixのようにオフィスの片隅に専用ベッドとドリンクも用意しました。

前書きが長くなりましたが、今回のコラムの本題に入ります。読者の方はまだ若い方が多いかと存じますが、皆さんのご両親の中には、筆者と同じく70才を超えていらっしゃる方も多いかと思います。これから紹介するのはノンフィクション、つまり、今まさに起きているお話です。

スイスの老人ホームは基本的に、大小サイズに差はありますが、一つの村にほぼ最低一件、大きな都市では区ごとに一件ぐらい、一般的な老人ホームがあります。



基本的には国営のホームが一般的で、一部の富裕層のご老人が入居されるプライベートの高級老人ホームもありますが、この高級老人ホームにはスイスだけでなく、世界各国からの富豪の家族の方が入居されています。

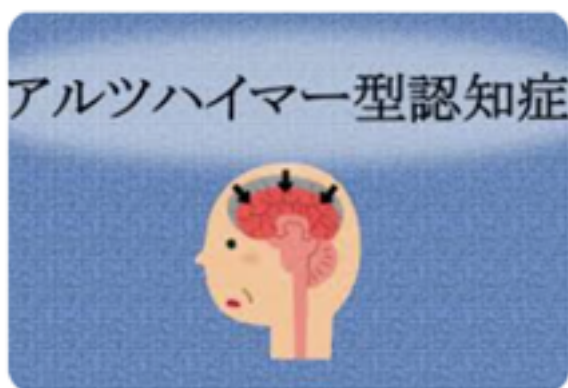
実際にそのホームで働かれているナースの方から聞いた話なのですが、入居されるご老人が大好きなプライベート保有の絵画、例えばスイスで有名なシャガールとかピカソの本物の絵画が自然に入居者の部屋に飾られていたり、アラブの富豪の入居者とかは、お抱えのナースとかドクターも一緒に連れてくるとか、まるでハリウッド映画の世界です。

家族がご両親を訪問する時には、チューリッヒ空港とかジュネーブ空港にプライベートジェットで飛来し、そこからはリムジンにのってホームを訪問したりしているようです。ちなみに入居料金とかは一月数千円から億単位の費用が払われているようです。

このアラブ富豪家族の情報源は、筆者の長女が実際にチューリッヒ郊外にあるホームに勤務していた時に話してくれました。



部屋数が少ない地方の老人ホームの中には順番待ちをしている老人が多くいるのも事実です。自分の住み慣れた村のホームに入れるとは保証されません。住み慣れた村のホームが一杯の場合は、日本で言う戸籍に登録されている村ヘトランスファーされることも多々あります。そこでスイスならではの事例をもうしあげますと、前にもこのコラムで一度ご紹介させていただきましたが、スイスの公式用語はドイツ語、フランス語、イタリア語ならびにスイスロマンと言う4か国語からなり立っているおります。つまり、たまたまご両親がイタリア語圏出身とか、戸籍上の住所がフランス語圏だったりすると、自動的に戸籍が登録されている地方の老人ホームにトランスファーされると言う事例が沢山あります。



極端なケースなのですが、最近よく耳にする老人性認知症とかアルツハイマー型認知症を例に

